

**九州地方整備局事業評価監視委員会（平成19年度 第4回）
議 事 概 要 （ 速 報 ）**

○日 時 平成20年 2月12日（火） 14:00～16:30

○場 所 福岡市博多区 ホテルセントラータ博多 花筐の間

○出席者

- ・ 委 員 : 善 委員長、明石 委員、秋山 委員、浅野 委員、井上 委員、野見山 委員
(欠席: 小野委員)
- ・ 整備局 : 鈴木 局長、小池 副局長、佐藤 副局長、澁谷 総務部長、森北 企画部長、
藤澤 河川部長、吉崎 道路部長、梶原 港湾空港部長、大和田 建政部長、
森安 営繕部長、山本 用地部長 他

○資 料

- ・ 資 料-1 議事次第
- ・ 資 料-2 九州地方整備局事業評価監視委員会(平成19年度 第4回)座席表
- ・ 資 料-3 九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿
- ・ 資 料-4 平成19年度 第4回委員会対象事業

○議 事

1. 開 会

2. 出席者の紹介

3. 対象事業の審議

1) 重点審議事業の選定説明

2) 再評価対象事業の説明、審議(砂防1事業)

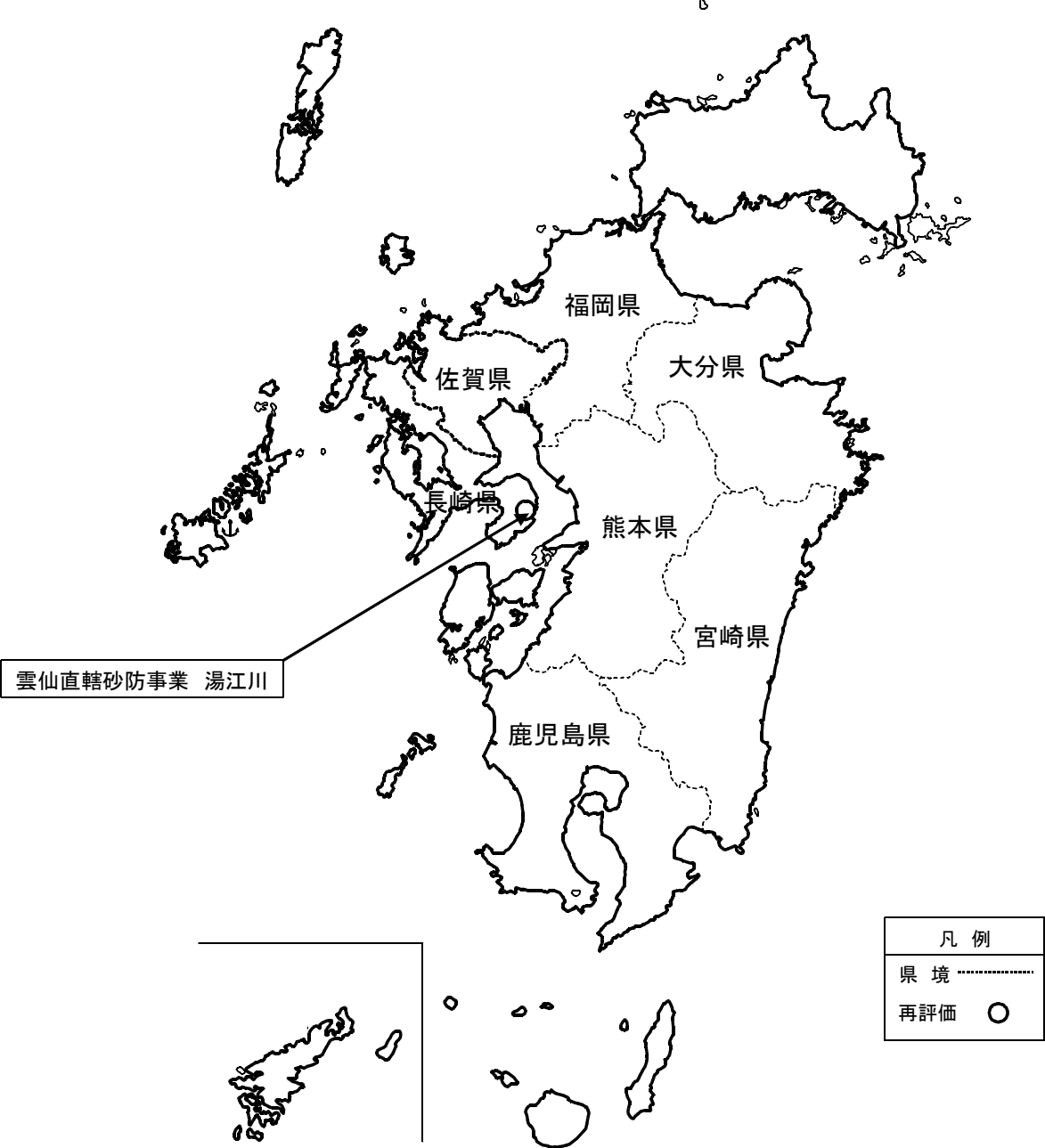
- ・ 雲仙直轄砂防事業 湯江川

3) 事後評価対象事業の説明、審議(河川1事業、ダム1事業、
港湾4事業、営繕1事業)

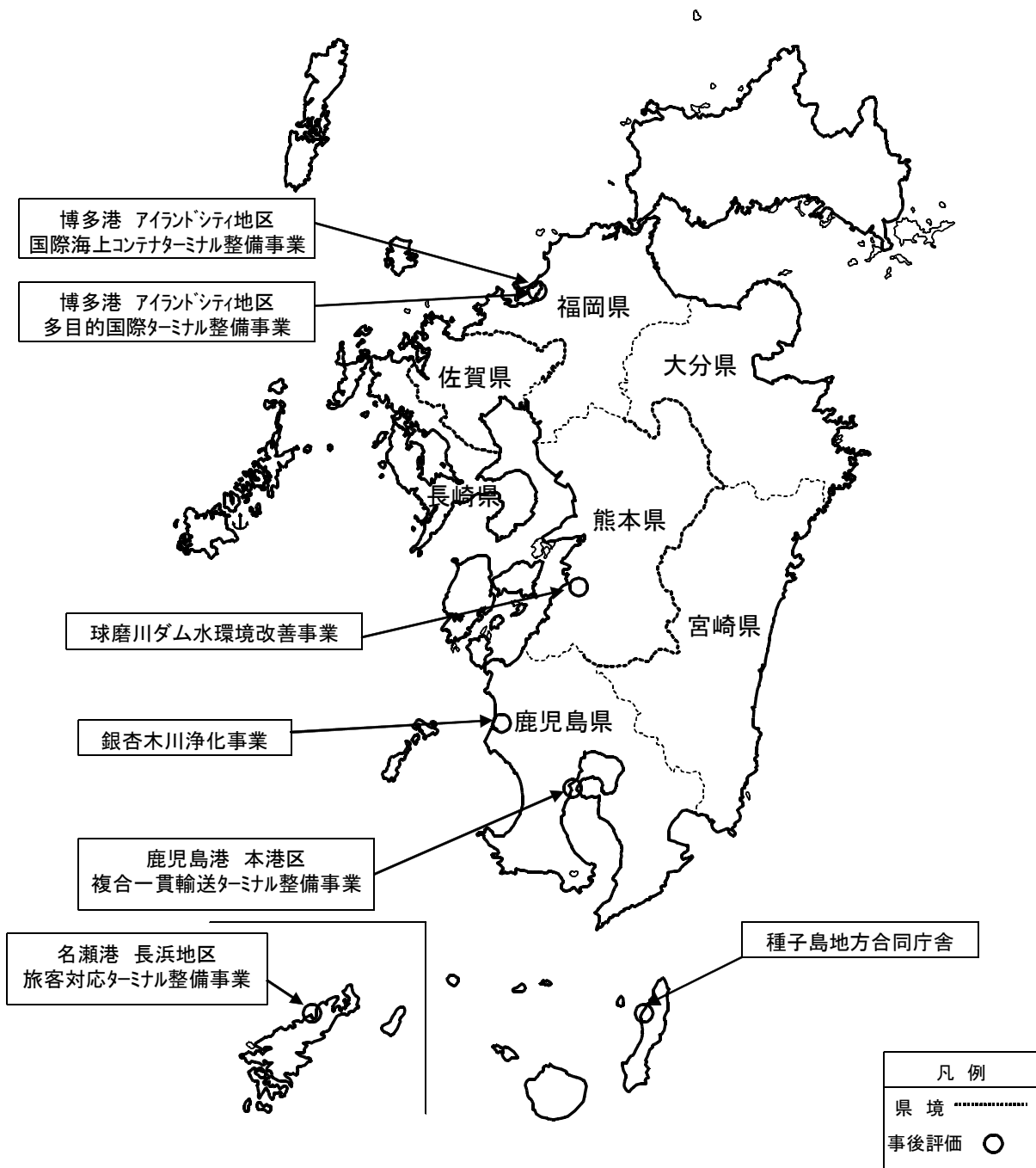
- ・ 银杏木川浄化事業
- ・ 球磨川ダム水環境改善事業
- ・ 博多港 アイランドシティ地区 国際海上コンテナターミナル整備事業
- ・ 博多港 アイランドシティ地区 多目的国際ターミナル整備事業
- ・ 鹿児島港 本港区 複合一貫輸送ターミナル整備事業
- ・ 名瀬港 長浜地区 旅客対応ターミナル整備事
- ・ 種子島地方合同庁舎

4. 閉 会

位置図(再評価)



位置図(事後評価)



九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿

- あかし ひろよし
○明石 博義 (社)九州経済連合会 副会長
- あきやま じゅいちろう
秋山 壽一郎 九州工業大学工学部教授
- あさの なおひと
浅野 直人 福岡大学法学部教授
- いのうえ のぶあき
井上 信昭 福岡大学工学部教授
- おの ゆういち
小野 勇一 九州大学名誉教授(北九州市立いのちのたび博物館館長)
- きはら たかし
木原 隆司 九州大学大学院経済学研究院教授
- ぜん こうき
◎善 功企 九州大学大学院工学研究院教授
- のみやま みちこ
野見山 ミチ子 NPO直方川づくりの会理事長

※ ◎印：委員長 ○印：副委員長

(五十音順、敬称略)

○重点審議事業の選定説明

本日の審議事業における重点審議事業、要点審議事業の選定理由について、選定委員である浅野委員、善委員長より説明を行った。

選定結果は、以下のとおりとなった。

■再評価

【砂防事業】

- ・重点審議事業：雲仙直轄砂防事業 湯江川

■事後評価

【河川事業】

- ・重点審議事業：銀杏木川浄化事業

【港湾事業】

- ・重点審議事業：博多港 アイランドシティ地区
国際海上コンテナターミナル整備事業

【営繕事業】

- ・種子島地方合同庁舎

○審議結果

事務局より再評価対象事業（砂防1事業）について説明し、審議を行った。

【雲仙直轄砂防事業 湯江川】・・・事業継続

- 審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。
- 委員からの意見
 - ・特になし。

事務局より事後評価対象事業（河川1事業、ダム1事業、港湾4事業、営繕1事業）について説明し、審議を行った。

【銀杏木川浄化事業】

- 審議の結果、対応方針（原案）は修文をもって、了承された。
- 委員からの意見
 - ・今後の対応方針について、同種事業の採択や進め方について、国と地元の役割分担について盛り込むこと。

【球磨川ダム水環境改善事業】

- 審議の結果、対応方針（原案）どおり、了承された。
- 委員からの意見
 - ・ 特になし

【博多港 アイランドシティ地区 国際海上コンテナターミナル整備事業】

- 審議の結果、対応方針（原案）どおり、了承された。
- 委員からの意見
 - ・ 特になし。

【博多港 アイランドシティ地区 多目的国際ターミナル整備事業】

- 審議の結果、対応方針（原案）どおり、了承された。
- 委員からの意見
 - ・ 特になし。

【鹿児島港 本港区 複合一貫輸送ターミナル整備事業】

- 審議の結果、対応方針（原案）どおり、了承された。
- 委員からの意見
 - ・ 特になし。

【名瀬港 長浜地区 旅客対応ターミナル整備事業】

- 審議の結果、対応方針（原案）どおり、了承された。
- 委員からの意見
 - ・ 特になし。

【種子島地方合同庁舎】

- 審議の結果、対応方針（原案）どおり、了承された。
- 委員からの意見
 - ・ 今回の評価手法としては、完成しているとはいえず、新しい評価軸の追加を検討しつつ、評価の見直しについては引き続き検証を行っていくことが必要である。